

道路網の整備についての提言

—21世紀における環瀬戸内交流圏の中核を目指して—

平成 5 年12月

社団
法人 香川経済同友会

はじめに

首都圏への過度の集中は、都市機能の麻痺をもたらしたと同時に地方の過疎を生み国土全体の活力が低下しつつある。この一極集中の是正には、地方の均衡のとれた発展が不可欠であるとの認識が高まり、地方の時代といわれるようになった。

従来の枠を越えて、中四国と近畿を結ぶ環瀬戸内交流圏の経済・文化的交流を深めることにより地域の活性化を図り、健全で暮らしよい魅力ある地域を作らなければならない。

本州四国連絡橋児島・坂出ルートは昭和63年に開通し、平成9年度に神戸・鳴門ルートが、さらに平成10年度には尾道・今治ルートの完成が予定され中国と四国は一体となりつつある。また、関西新空港の開港により、この環瀬戸内交流圏は国際化の新しい時代を迎えようとしている。

この状況の中で、その基盤となる道路はこの環瀬戸内交流圏の動脈として高速交通体系のネットワークを組まなければならない。

当委員会においては、この道路を単に県内の道路あるいは隣県を結ぶ道という視点ではなく、広域的視野でとらえたいと考えてきた。高速道路は瀬戸内全域を結ぶネットワークでなければならないという前提のもとに検討してきた。

地方道についてはこの高速道路のインターとのアクセス整備により、高速道路の機能を高め、物流の円滑化と地域産業の発展をもたらすものと位置づけるとともに、都市機能の充実と都市内交通渋滞の緩和を念頭において考えてきた。

平成5年12月

社団法人 香川経済同友会

代 表 幹 事 丸 山 修

代 表 幹 事
幹線道路特別委員長 赤 澤 庄 三

『道路網の整備についての提言』

－ 21世紀における環瀬戸内交流圏の中核を目指して－

目 次

はじめに	1頁
I. 四国の高速交通体系の整備状況	3頁
1. 本州四国連絡橋	3頁
2. 四国横断自動車道・縦貫自動車道	3頁
II. 県内主要幹線道路の状況	5頁
1. 県と県を結ぶ道路	5頁
2. 県内各地を結ぶ道路	6頁
3. 主要地域拠点へのアクセス道路	6頁
4. 都市内道路	6頁
5. 地方の生活道路	7頁
III. 道路網整備の方向性	8頁
IV. 主要幹線道路についてのアンケート結果	10頁
V. 提言	13頁
VI. おわりに	15頁
添付資料－1 香川県の道路網の現況	
" －2 高松市を中心とした2時間交流圏域	
" －3 国土開発幹線自動車道の概要	
" －4 自動車保有台数の推移	
" －5 走行台数の推移	
" －6 香川県における道路の沿道状況別混雑度の状況	
" －7 香川県における道路密度の状況	
" －8 道路整備状況	
" －9 D I Dの推移	
参考資料－1 幹線道路特別委員会開催記録	
" －2 " 名簿	

I. 四国の高速交通体系の整備状況

1. 本州四国連絡橋

県民の悲願であった児島・坂出ルート（瀬戸大橋）が昭和63年に開通し、本州と四国は自動車道、鉄道ともに結ばれた。

この架橋により人・物・情報の交流は飛躍的に深まり、中国、四国、近畿を含めた環瀬戸内交流圏の創造に大きなステップを踏み出すこととなった。

平成 9年度には神戸・鳴門ルートの開通が予定され、翌年度の尾道・今治ルートの開通と合わせると本格的な架橋時代を迎えることとなり、環瀬戸内交流圏は急速に実質的な進展が図られるものと思われる。

2. 四国横断自動車道・縦貫自動車道

平成 4年 4月、四国横断自動車道は高松市内まで延伸し坂出ジャンクションで瀬戸中央自動車道とも結ばれ、四国も高速自動車道時代に入った。しかし、四国内における高速道路の整備供用率は横断道23%、縦貫道17%で全国に比して事業の進捗率は低い。（資料－1～3 参照）

愛媛県では西条市～伊予市間、高知県では南国市～伊野町間、又、徳島県では徳島～川之江東ジャンクション間が工事中であり、建設省によると第11次道路整備五箇年計画内の供用予定となっており、平成 9年度までには四県都が高速道路で結ばれることになる。

一方、高松～鳴門間では三木町～津田東間は自動車専用道として用地買収完了部分より工事を進めており、平成 9年度の供用予定となっているものの、高松西インターチェンジ～三木町、津田東～鳴門間は未だ着工されていない。このうち津田東～鳴門間の平成 9年度の開通は、余程の努力なくしては困難な状況と考えられる。

平成 9年度の開通が遅れることになると、明石海峡大橋完成の投資効果が活かされないばかりでなく、一時的にせよ渋滞・混雑が高まるなど香川、徳島両県にとっての経済的・精神的マイナスは大である。

II. 県内主要幹線道路の状況

高速自動車道等の交通網は県と県、さらに大都市とを結ぶ時間距離の短縮等を目的とする道路であるが、国道や県道（主要幹線道路）は県内の都市間、また隣県を結び、日常生活、社会経済活動に直接関連の深い道路である。

近年の自動車保有台数の着実な伸びに加え、瀬戸大橋の開通や四国横断自動車道の一部供用に伴う交通量の大幅な増大により、主要幹線道路の随所に交通渋滞が発生している。市街地における道路延長の約55%において混雑度が1.0を越えている。（資料－4～6 参照）

香川県は全国的にも道路密度が高く、道路改良率等の整備状況は全国水準を上回っているが、都市内道路については水準に達していない。（資料－7、8 参照）

さらに、D I D（人口集中地区）面積も平成2年度までの25年間に約2.5倍と都市規模の拡大傾向が強くなっている。（資料－9 参照）

このような状況から、バイパス等の整備は進められているものの、幹線道路の慢性的な渋滞で生活道路にも影響が生じる結果となっている。

また、市街地において鉄道との平面交差箇所が多く、交通の安全と円滑化の妨げとなっている。

1. 県と県を結ぶ道路

隣県をつなぐ主要道路は、東西に延びる国道11号、32号、南北に延びる国道193号、318号等を骨格として形成されている。愛媛県と高知県に対しては四国横断、縦貫自動車道の一部供用により時間距離の短縮が図られているが、徳島市に向けては国道11号に依存している。

2. 県内各地を結ぶ道路

県内の主要地を結ぶ道路においても、臨海部に点在する都市を東西につなぐ国道11号と、内陸の平野部を通り山間部に至る国道32号がその中心をなしている。

東讃地区の内陸部において、将来的な一般国道11号高松東道路を補完し、また均衡ある県土の発展を促すため県道高松長尾大内線バイパス等が建設中である。

さらに、高松市から詫間町にかけてさぬき浜街道（臨海産業道路）の建設が進められており、部分的に整備供用されている。最近では、高松市中山町、坂出市の新坂江橋付近、そして丸亀市の中津大橋付近で四車線化が図られたが、丸亀市街地などで一部未整備区間がある。

3. 主要地域拠点へのアクセス道路

県内の主要な観光拠点、交通拠点のアクセス道路として、高松市及び丸亀市から屋島、琴平等の観光地に向けて国道11号、32号、319号等がまた、昨年4月に国際線乗り入れが実現した高松空港に対して国道193号等がその役割を担っている。

また、各拠点との連携をスムーズにするため、国道11号高松東道路、国道11号坂出丸亀バイパス、国道32号綾南バイパス、綾歌バイパス及び満濃バイパス等が現国道と並行して整備されつつある。

4. 都市内道路

現在、高松市中心部の都市機能の充実を図る環状道路は整備されるに至っていない。内環状道路の位置づけで、県道三木国分寺線等の既存道路の改良整備を含めた強化が図られようとしている。

また、鉄道との平面交差による交通上の課題を解消するため、琴電の築港駅～三条駅間の連続立体交差化が検討されている。

5. 地方の生活道路

高松市等の中枢都市圏域にとどまらず、地方部の生活道路の確保充実も重要である。例えば国道 438号では、坂出インターチェンジ～飯山町～綾歌町～満濃町～琴南町の連携強化を目的とした整備と、琴南町の川奥地区では、徳島県との連絡を可能とする三頭トンネルの工事が進められようとしている。

Ⅲ. 道路網整備の方向性

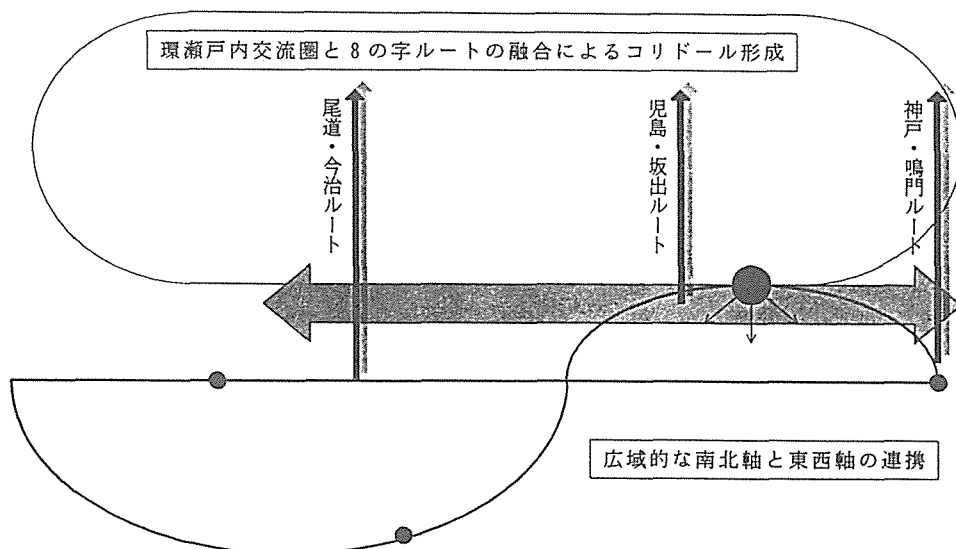
中四国と近畿を結ぶ環瀬戸内交流圏の創設のためには、本四三架橋と四国域内における8の字の高速自動車道の形成が前提となる。すなわち本四架橋を中心とする3つの南北軸と、徳島、香川、愛媛、高知を結ぶ東西軸の有機的結びつきがその骨格となる。

更に、この縦横の軸の一層効果を高めるのは、太平洋側と瀬戸内を結ぶ四国横断軸と、山陽と日本海を結ぶ中国横断軸の形成である。

これらの道路網が、あたかも四国・中国と瀬戸内海を一体化したコリドール（回廊）として整備されることにより、広域的な産業・物流の再編成が図られると思われる。

又、この高速交通体系と主要幹線道路の整備は、人々の交流の促進、県内企業活動と観光の振興、生活の質の向上に大きく寄与することになる。

広域的な道路網の整備イメージ



1. 高速交通体系整備の促進

平成 9～10年度供用開始が予定されている本四架橋（神戸・鳴門ルート、尾道・今治ルート）に合わせて、四国内の高速道路網と本州側の中国縦貫自動車道、山陽自動車道が直結されることにより四国、中国、近畿を包括した瀬戸内地方の活発な交流、すなわち、環瀬戸内交流圏が形成され、地域の経済・文化の発展と情報の高度化が実現する。

2. 高速交通体系と連携する域内幹線道路網の充実強化

本四架橋、及び高速道路等の高速交通体系の整備効果を県土全体で享受するには、これらと連携する域内の主要幹線道路のネットワーク整備が必要である。

臨海部と山間部の両地域において東西幹線を整備拡充し、南北幹線の整備と合わせて地域交通体系確立が図られなければならない。

3. 中枢都市機能強化を図る都市内道路の整備充実

生活の根幹的施設である都市内道路網（環状道路、バイパス機能を持つ道路等）の整備は、中枢都市機能の高度化を阻害している交通渋滞の緩和と生活の質の向上の意味からも重要である。

4. 観光振興及び地域開発プロジェクトを支援する道路網整備

県内主要観光地へのアクセス機能を担う道路網や、「高松港頭地区（サンポート高松）の総合整備」「香川インテリジェントパーク計画」等の開発プロジェクトにつながる道路網整備は、これらの開発プロジェクトの効果を高めるために重要である。

IV. 主要幹線道路についてのアンケート結果

当委員会では、建設省及び香川県の道路関係者に出席して頂き、県下の道路事情、工事の進捗状況について6回にわたり説明をして頂き、検討してきた。

委員の要望・意見は下記のとおりである。

1. 四国横断自動車道の高松西～鳴門間の早期開通
2. 現在の道路路線で拡幅・延伸が望まれる路線
 - (1)32号バイパス（綾南・綾歌・満濃）工区の早期完成
 - (2)高松長尾大内線の田面峠から国道11号丹生までの整備
 - (3)国道 319号善通寺～琴平間の整備
 - (4)高松海岸線の高松中央通りから玉藻間の整備
 - (5)高松海岸線の屋島西町から庵治町・志度町までの延伸
 - (6)さぬき浜街道の五色台トンネルの無料化
 - (7)さぬき浜街道の多度津～詫間間の早期延長
 - (8)県道高松志度線（新田町～志度町間）の早期整備
3. 新しく新設が望まれる主要路線
 - (1)国道 438号三頭トンネルの早期開通
 - (2)国道11号丹生から引田町間のバイパスの建設
 - (3)土器川堤防を利用した 2車線道路の建設
 - (4)高松西インターから空港へのアクセス
 - (5)中讃地域から空港へのアクセス道
 - (6)高松市環状道路
 - (7)高松～丸亀間の地域高規格道路

提言項目を絞り込むため、アンケートを当委員の34名の方々に依頼をした。回答は31名で回答率は91.2%であった。

四国横断自動車道の高松西～鳴門間の早期開通は、最優先課題であるのでアンケート調査からは除外した。

アンケート調査結果は、既存路線ではさぬき浜街道（臨海産業道路）の延伸整備を望む声が多い。

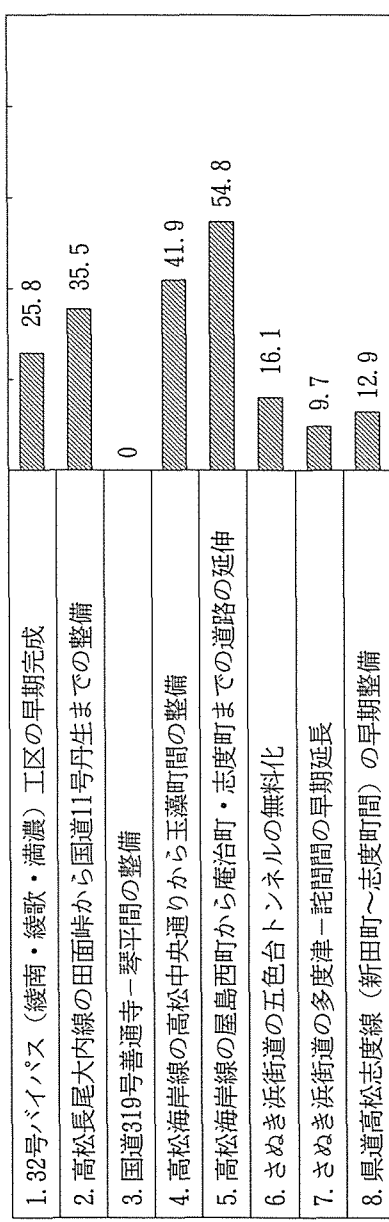
また、新設路線では東讃地区の発展を促す国道11号の丹生から引田町間のバイパス建設と、地域高規格道路の高松市環状道路の要望が多かった。

アンケート調査結果の集計は次ページに記している。

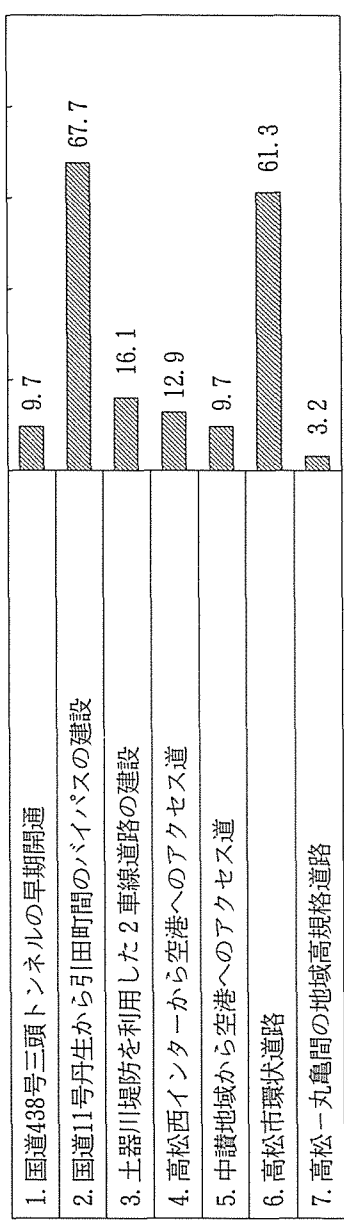
アンケート調査結果集計表

委員数 34名
 回答数 31名 (回答率 91.2%)
 内訳 高松地区 17名 (54.8%)
 東讃地区 7名 (22.6%)
 中西讃地区 7名 (22.6%)

I. 現在の道路路線で拡幅・延伸が望まれる路線 (%)



II. 新しく新設が望まれる主要路線 (%)



	効果						合計
	工業の発展	農業の振興	物流の円滑化	過疎地域の活性化	都市機能の充実	観光客の誘致	
	1	4	2	5	4	16	
	2	1	5	2	1	7	
		3	13	1	8	25	
	4	12	4	1	10	31	
	1	3	2	3	1	10	
	1	3	1	1	6	6	
	1	3	1	2	7	7	

	1	2	2	1	6
5	13	5	2	4	10
	2	2	1	2	9
	1	1	3	1	7
1		2	1	1	6
	7	1	16	3	8
	1	1	1	1	4

V. 提言

① 四国横断自動車道・高松～鳴門間の明石海峡大橋との同時開通

平成 9年度に本四連絡橋神戸・鳴門ルート of 供用開始が予定されているにもかかわらず、四国横断自動車道高松市内区間と津田～鳴門間の工事が未だ着工されていない状況では明石海峡大橋の開通に間に合わず、同大橋の投資効果が活かされないばかりか、激しい交通渋滞・混雑をはじめ、四国の経済発展に与える影響は大きい。

高松地域と近畿圏の物流は、瀬戸大橋が完成した今日でも高松・宇野間のフェリーと、淡路島・神戸間のフェリーが重要な役割をはたしている。明石海峡大橋の完成は高松以東の物流にとって時間距離が大巾に短縮されることからきわめて重要な路線となることが考えられる。このためにも高松～鳴門間の高速道路建設を急ぎ、明石海峡大橋との同時開通を目指し、早期に整備されることを県民を挙げて関係機関に要望する。

② 国道11号丹生（大内町）～引田間のバイパス建設と県道高松長尾大内線の田面～丹生間の整備

東讃地区の道路整備は、神戸・鳴門ルートにつながる物流、商流ルートの変革を促し、県内の産業活動の活発化に大きく寄与するものと考えられる。また、四国横断自動車道の整備の遅れと東讃地区の主要な国道が11号のみであることによる西高東低といわれる地域格差を是正し、地域住民の利便性向上に資する意味からも早期整備が必要である。

③ さぬき浜街道と高松海岸線の早期整備

さぬき浜街道は高松中央通りで終わっており、ここよりフェリー通り（玉藻町）間が未整備であるため産業道路的機能が阻害されている。この区間は市の街路事業となっているが、玉藻城の景観及び琴電の高架事業など問題は多いと思うが、国・県・市が一体となって早期整備が必要である。

また、さぬき浜街道の丸亀市街部の完全四車線化と、現在屋島西町で終わっている高松海岸線を更に東に延伸することが、産業道路としての機能を高め、地域住民の利便性の向上になるため早期整備が必要である。

④ 高松市環状道路構想の早期策定

高次都市機能を備えた拠点を形成するため高松市街地部の交通渋滞緩和と定時性、速達性を実現するため都市内環状道路の必要度は非常に高いと思われる。

現在、国道11号・32号・193号は全て高松市内へ集中している。一方、今般暫定供用された高松東道路と、高松市中央道り以西のさぬき浜街道もバイパス機能として十分とは言えない。

県内都市部の中でも特に高松市の環状道路は進展中の高松港頭地区（サンポート高松）のアクセス道路としてもぜひ必要であり、構想の早期策定を期待する。

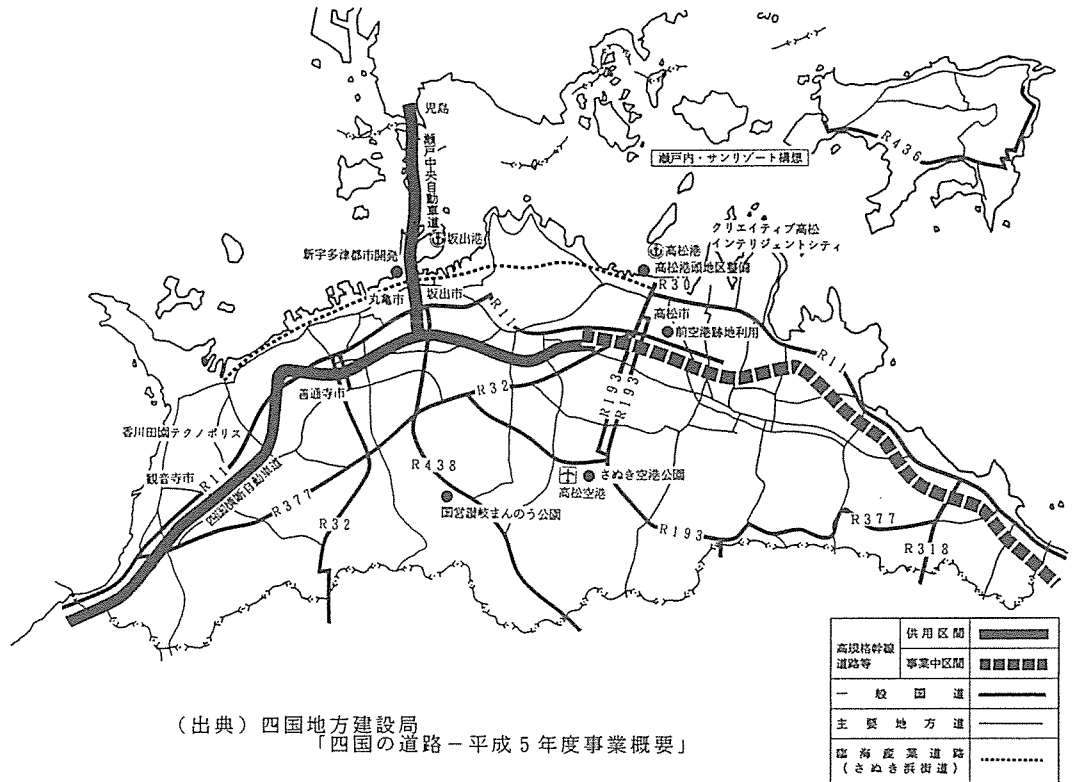
VI. おわりに

当幹線道路特別委員会においては、身近な地方生活道は瀬戸内圏全域を結ぶネットワークの一環として機能を果たすべきであるとの認識に立って考えてきた。

このため、当委員会では行政機関と情報交換を行うことにより、我々として果たすべき役割があることを認識し、道路づくりは人づくり・地域づくりの視点にたって、21世紀にむけての企業や生活者の側から提言を行いたいと考えてきた。

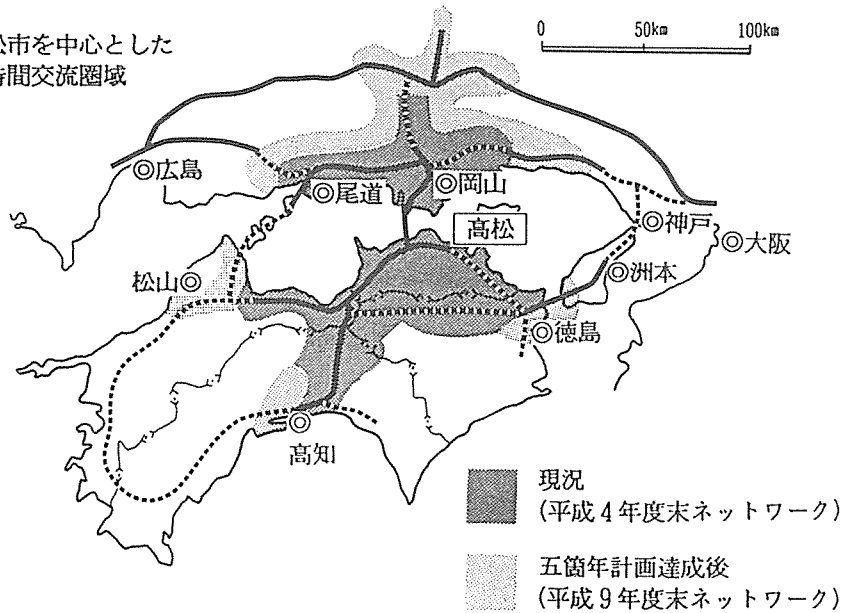
なお、本提言をまとめるにあたって関係各位から一方ならぬご協力とご指導をいただき、ここに謝意を表する。

香川県の道路網の現況



交流圏域の拡大

高松市を中心とした
2時間交流圏域



(出典) 四国地方幹線道路協議会「四国はひとつ－第11次道路整備五箇年計画」

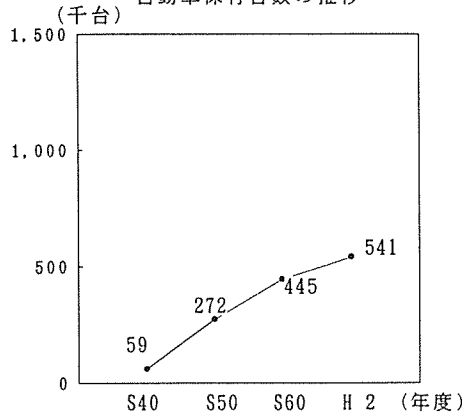
国土開発幹線自動車道の概要

(四国横断・縦貫自動車道)

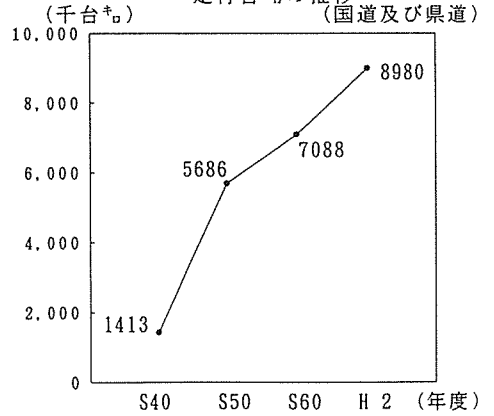
区分	区間 (市町村名)	基本計画延長 整備計画延長	供用延長
四国横断自動車道	阿南 徳島 高松 南国 大洲	基本計画延長 328 km 整備計画延長 214 km	高松西IC 21.7 km 普通寺IC 35.2 km 川之江JCT 29.1 km 大豊IC 21.0 km 南国IC
	小計	462 km	107.0 km (23%)
四国縦貫自動車道	徳島 池田 川之江 西条 松山 大洲	基本計画延長 223 km 整備計画延長 223 km	川之江JCT 3.2 km 三島川之江IC 11.0 km 土居IC 23.4 km いよ西条IC
	小計	223 km	37.6 km (17%)

(平成5年4月1日現在)
(出典) 四国地方建設局調べ

自動車保有台数の推移



走行台数の推移



(出典) 四国運輸局「自動車数の推移」、建設省「平成2年度道路交通センサス」

資料 — 6

香川県における道路の沿道状況別混雑度の状況

沿道状況	混雑度 1.0以上の 道路延長 (km)	道路総延長 (km)	混雑度 1.0以上 延長の道路総延長 に対する割合 (%)	12時 間 平均 混雑 度
DID地区内	68.8	109.4	62.9	1.28
その他市街地部	41.7	92.0	45.3	0.96
平地部	323.8	969.7	33.4	0.74
山地部	201.3	665.1	30.3	0.49
合計	635.6	1,836.2	34.6	0.75

(出典) 建設省「平成2年度道路交通センサス」

資料 — 7

香川県における道路密度の状況

香 川 県	四 国	全 国
971	596	465

道路密度 = 道路延長(m) / 面積(km²)

(出典) 建設省「道路統計年報 1991」

資料 — 8

道 路 整 備 状 況

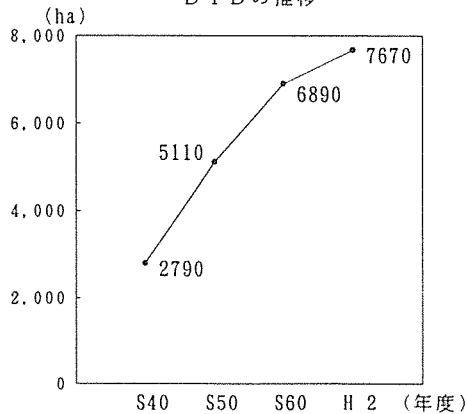
(H3.4.1現在)

道路種別	香 川 県			四 国			全 国		
	実延長 (km)	改良率 (%)	整備率 (%)	実延長 (km)	改良率 (%)	整備率 (%)	実延長 (km)	改良率 (%)	整備率 (%)
高速自動車国道	30.9	100.0	100.0	70.4	100.0	100.0	4,869.4	100.0	100.0
一般国道	313.5	95.8	50.2	2,824.7	77.7	51.1	47,000.0	87.9	54.9
主要地方道	597.3	78.0	57.1	3,232.9	45.7	36.2	50,388.3	67.1	51.8
一般県道	910.8	51.7	42.5	5,144.4	28.4	24.8	78,652.1	49.9	43.4

(出典) 建設省「道路統計年報 1992」

資料 — 9

D I D の 推 移



D I D : 人口集中地区、国勢調査において市区町村の区域内で人口密度の高い(4,000人/km²)調査区が互いに隣接して、その人口が5,000人以上となる地区。

(出典) 国勢調査

参考資料－1 幹線道路特別委員会開催記録

- 1) 平成 2年 5月11日：第一回幹線道路特別委員会を開き、今後の委員会活動について検討する。
- 2) 平成 2年10月22日：第二回幹線道路特別委員会 勉強会
「香川県における幹線道路の現状と問題」
香川県土木部道路建設課課長 乾 淳一氏
- 3) 平成 3年 2月26日：第三回幹線道路特別委員会を開き、県下の道路の現状について意見交換を行う。
- 4) 平成 4年 5月18日：第四回幹線道路特別委員会 勉強会
「道路整備の将来ビジョン」
四国地方建設局香川工事事務所
調査第二課長 喜多 忠義氏
香川県土木部道路建設課副主幹 中井 敬一氏
- 5) 平成 5年 5月31日：第五回幹線道路特別委員会にて、県下の交通網の将来像について意見交換を行う。
- 6) 平成 5年 7月12日：第六回幹線道路特別委員会を開き、勉強会とアンケートについて意見交換を行った。
「高速道路網を中心とした道路計画について」
四国地方建設局香川工事事務所
調査第二課長 西岡南海男氏
「香川県の道路計画について」
香川県土木部道路建設課副主幹 久保 市郎氏
- 7) 平成 5年 9月24日：第七回幹線道路特別委員会を開催した。
 - ①勉強会
「香川県の道路計画について」
香川県土木部道路建設課課長 坂井 重信氏
 - ②アンケートの集計結果についての説明
- 8) 平成 5年10月29日：第八回幹線道路特別委員会を開催し、提言(案)を検討した。

参考資料－ 2 社団法人香川経済同友会「幹線道路特別委員会」委員名簿

[代表幹事]	丸山 修	南海プライウッド(株)	代表取締役社長
[代表幹事兼委員長]	赤澤 庄三	帝國製薬(株)	代表取締役社長
[副委員長]	山城 孝	鹿島建設(株)四国支店	常務取締役支店長
[常任幹事]	漆原 和義	(株)ウルシハラ	代表取締役社長
[常任幹事]	大西 大介	関西通信建設(株)	代表取締役社長
[常任幹事]	河辺 康雄	河辺建設工業(株)	代表取締役社長
[常任幹事]	佐藤敬一郎	大川自動車(株)	代表取締役社長
[幹事]	内海長次郎	サングローブ(株)	代表取締役
[幹事]	大矢根捷人	(株)大矢根利器製作所	代表取締役社長
[幹事]	大竹 哲也	(株)オオタケ	代表取締役社長
[幹事]	川畑 省三	東交バス(株)	代表取締役社長
[幹事]	国東 照正	香川県信用組合	理事長
[幹事]	香西 薫	(株)香西鉄工所	専務取締役
[幹事]	三野 義則	(株)日鋼サッシュ製作所	代表取締役社長
	綾 憲夫	(株)東亜工業所	代表取締役社長
	飯野 忠	三洋証券(株)高松支店	支店長
	池田 正	(有)池田金物	代表取締役
	市川 央	鹿島建設(株)四国支店	開発部長
	上杉 義隆	(株)丸亀給食センター	代表取締役
	上村 豊	(株)ユーミック	代表取締役社長
	太田 賀久	高松帝酸(株)	代表取締役社長
	大谷 一良	(株)オープン	代表取締役
	大林 彰範	青葉工業(株)	代表取締役会長
	河西 信清	河西建設(株)	専務取締役
	倉原 良民	日本舗道(株)四国支店	支店長
	坂井 幸治	(株)坂井工務店	代表取締役社長
	佐藤 哲也	(株)久本	代表取締役
	筒井 進	(株)ドラゴン	代表取締役社長
	中野 吉貫	(株)中野屋	専務取締役
	中村 壽夫	中村土木(株)	代表取締役
	野村 亨司	香川小松重機(株)	代表取締役
	松本 一茂	松本産業(株)	代表取締役
	真鍋 慎吾	横井石油(株)	代表取締役社長
	三木 敏士	帝國製薬(株)	取締役管理本部長
	三好 武夫	日本道路(株)四国支店	支店長
[事務局]	石丸 尚志	(社)香川経済同友会	専務常任幹事事務局長
	熊谷 孝三	(社)香川経済同友会	調査部次長

道路網の整備についての提言

—21世紀における環瀬戸内交流圏の中核を目指して—

平成 5 年 12 月 10 日発行

発 行 (社)香川経済同友会

専務常任幹事 石丸 尚 志
事務局長

〒760 高松市紺屋町 1 - 3

紺屋町清水ビル 6 階

TEL 0878-21-8754

FAX 0878-23-1160

(社)香川経済同友会提言 No. 15